

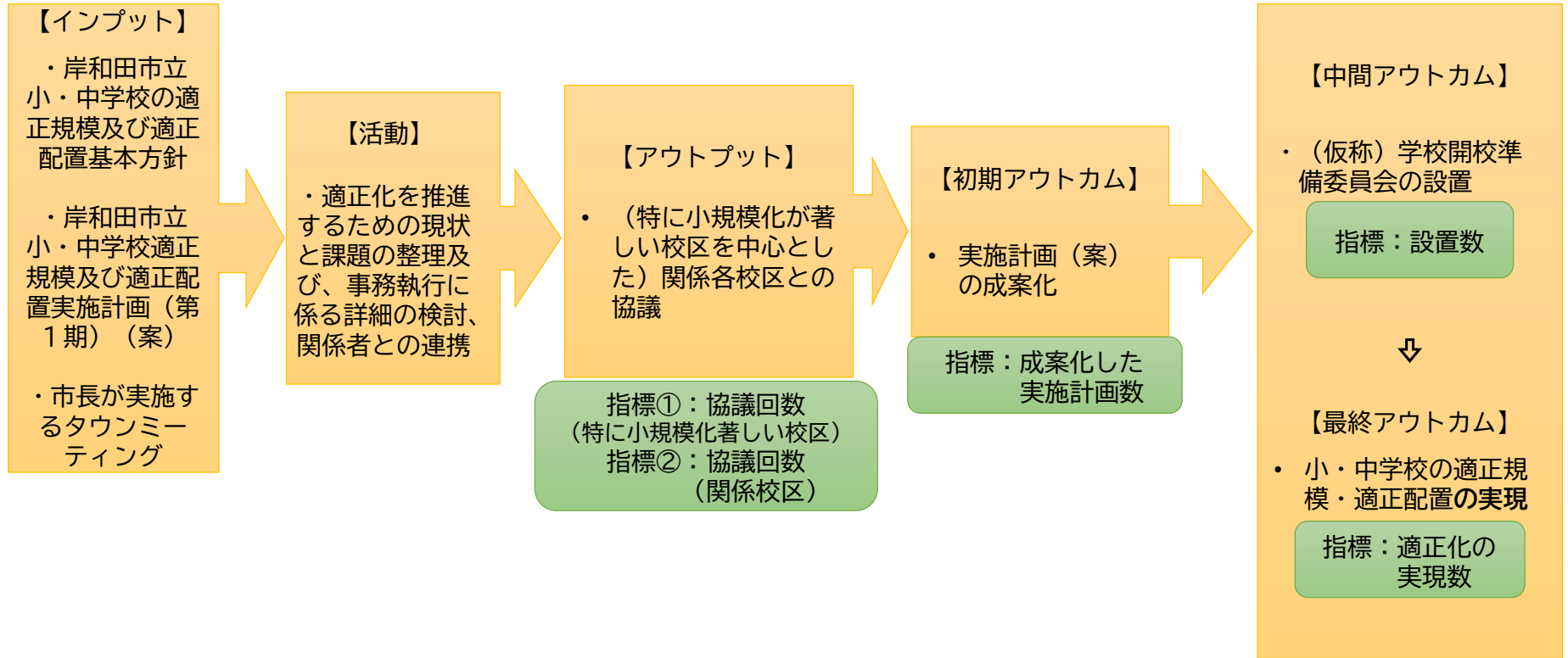
【R7年度】重点目標の取組・概要（小・中学校の適正規模及び適正配置の推進[学校適正配置推進事業]）

担当課（内線）	学校適正配置推進課（内線5534）	重点目標の方向性	子どもの保育・教育環境の向上
重点目標	子育てしやすい岸和田の実現	行政の役割	安心して通学・通園できる環境を整える

現状と課題	課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）
<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校の児童生徒数がピーク時の約半数に減少していることに伴い、全学年が単学級の学校が増加するなど、学校の小規模化が進行しており、今後も同様の傾向が続く見込みである。 児童生徒数の減少により、児童生徒の人間関係や役割が固定化しやすくなり、また、教員配置についても制限が生じるため、部活動の設置が限定されるなど、教育環境や学校運営における課題が生じている。 	<p>【中期的(4～5年後)にめざす成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子化に伴う学校の小規模化が進む中、児童・生徒にとってより良い教育環境の整備と学校教育の充実を図るため、小・中学校の適正規模・適正配置の取組を推進する。 <p>【成果に向けての各年度の進め方】 (R7)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に小規模化が著しい校区を中心に、市と教育委員会が一丸となって地域と協議を行う。 市長が実施するタウンミーティングと連携を図りながら、適正化の取組を着実に実施する。 <p>(R8以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域との協議・検討状況等を踏まえ、小・中学校の適正規模・適正配置の取組を推進する。 <p>【R7年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に小規模化が著しい校区を中心に、市と教育委員会が一丸となって地域と協議を行う。 市長が実施するタウンミーティングと連携を図りながら、適正化の取組を着実に実施する。
R7年度の事業費（内訳）	
<ul style="list-style-type: none"> 地域住民及び保護者との協議等に係る需用費 300千円 	

R8年度以降の想定事業費（ランニング経費）	取組の進捗・成果を測る指標	成果・指標が未達成の場合の取扱い
<ul style="list-style-type: none"> 地域住民及び保護者との協議等に係る費用 （（仮称）学校開校準備委員会関連費用） 	<ul style="list-style-type: none"> （仮称）学校開校準備委員会設置数 0（2023）→1（2026） 	<p>※必ず縮小・廃止時期を記載すること</p> <p>(R8) 前年度を踏まえ改善 (R9) 前年度を踏まえ改善 (R10) 前年度を踏まえ改善</p>

ロジックモデル【事業立案時点】



財源	他団体の状況	その他（行政サービスとしての適正性について など）
<p>（国庫支出金）</p> <ul style="list-style-type: none"> 公立学校施設整備費負担金 補助率1/2 学校施設環境改善交付金 補助率1/2又は1/3 <p>（地方債）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育施設等整備事業債、公共施設等適正管理推進事業債 	<p>（和泉市）</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年 施設一体型義務教育学校槇尾学園開校（2小1中の統合校） 令和9年 施設一体型義務教育学校（仮称）富秋学園開校予定（2小1中の統合校） <p>（貝塚市）</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年 施設一体型義務教育学校二色学園開校（1小1中の統合校） 	

■ 中期的にめざす成果に対する達成度



- ・ 少子化に伴う学校の小規模化が進む中、児童・生徒にとってより良い教育環境の整備と学校教育の充実を図るため、小・中学校の適正規模・適正配置の取組を推進する。

■ R7年度において実施・実現できたこと

- ・ 小規模化が著しい校区を中心に訪問するなど関係者との連携強化を図った。
- ・ また、タウンミーティングでいただいた意見も踏まえながら、適正化の検討を進めた。

■ R7年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）



- ・ 特に小規模化が著しい校区を中心に、市と教育委員会が一丸となって地域と協議を行う。
- ・ 市長が実施するタウンミーティングと連携を図りながら、適正化の取組を着実に実施する。

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指標名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R7年度実績値
○	(仮称) 学校開校準備委員会設置数	—	0 (2023)	1 (2026)	0
○	(地域等) 年間訪問回数	—	11 (2025)	12 (2026)	11
○	(庁内) 年間会議開催数	—	4 (2025)	6 (2026)	4

■ R7年度において実施・実現できなかったこと

- ・ロジックモデルで初期アウトカムとして掲げる実施計画(案)の成案化について、修正の必要性の有無を含めた方向性を定めるまでには至らなかった。



■ 課題分析

- ・適正化の取組が市民の皆様や地域のご理解なしには進められないとの考えから、保護者や地域住民の不安を解消し、ご理解いただけるよう努める。



■ ロジックモデルの振り返り

- ・インプットをもとに活動を実施し、適正化の検討を進めた。
- ・現状の取組状況を総合的に勘案しながら、アウトプットをはじめとするロジックモデルの修正についても検討する。



■ 次年度以降の予定・改善内容

- ・岸和田市立小・中学校の適正規模及び適正配置基本方針を基に、小規模化による教育環境への影響が懸念される地域を対象に、市長部局と連携し、地域と十分に協議していく。
- ・タウンミーティングでの意見も踏まえ、より良い解決策を見出す観点から適正化の取組を推進する。